

ちょっとだけ!!
フライングディスク
将来構想会議
2020

将来構想メモvol.8(2020/10/27)

FlyingDiscTimes
presents

<ゲストプロフィール>

仙田凌

活動拠点:中部地区

所属:慶應義塾大学HUSKIES→信州Roots→San Diego Growlers→信州Roots

2015WU23@ロンドン メン部門日本代表

2015AOUC@香港 メン部門日本代表

2014年関東地区選抜

関わり方:プレイヤー、FlyingDiscTimes編集長

村岡彰文

活動拠点:関東地区

所属:文教大学AIRS→Technicolor→Tronto Rush→GOAT→Technicolor

2015、2017年関東地区選抜

2018U24@パース ミックス部門日本代表

関わり方:プレイヤー

<フライングディスクをこうしていきたい>

ビジネスの視点から考えるアルティメットのプロスポーツ化

<AUDLの現状>

- ①アルティメットのプロチーム運営方法とは？(経営主体)
- ②プロの契約形態って？(雇用)
- ③ファン獲得に向けてどんなことしてる？(見えるスポーツ化)
- ④日本でプロスポーツ化するために、何ができるか

<AUDLの原状>

①アルティメットのプロチーム運営方法とは？(経営主体)

- ・それぞれのチームにオーナーがつく。
- ・複数人で1チームの運営をしていたり、1人で複数のチームを運営していたりと様々。
- ・ホームゲームの運営はオーナー主体。

②プロの契約形態って？(雇用)

シーズンごとの契約。

→プレーオフ出場でボーナスが出たり、メディアへの露出があると加算。

仙田選手:日本の仕事をリモートでこなしながら、語学留学生として現地入り

村岡選手:現地のレストランで働きながらプレーしていた。

<AUDLの現状>

③ファン獲得に向けてどんなことしてる？(見えるスポーツ化)

- ・観客:家族、学校、職場の人が主体
→地域向けのイベントを開催し新たなファンを獲得していた。
- ・他のスポーツのハーフタイムにエキシビションを開催。
→アイスホッケー、野球、アメフトなど
- ・地元のバーがスポンサーについてくれた
→試合後の打ち上げは観客も選手も参加でき、交流が深められる

④日本でプロスポーツ化するために、何ができるか

- ・継続的に採算がとれるかどうか
→収支が取れているチームも有。その地域は他に盛んなスポーツが少なく、チームも強いのでファンが多い印象
- ・競技の本質への影響は？
→セルフジャッジを尊重しつつも審判を設置したり、AUDL独自のルールが有

<論点の整理>

・経営者やオーナーの「熱意」

→選手だけでなくその環境を作る全員に熱意を感じる。

どれだけ「熱意」を持って目の前のことに取り組めるか。

・「魅せる」競技として独自の発展を遂げている

→AUDLは審判がいるが、審判の判定が必ずしも絶対ではない。審判はファールコールをしたけど、選手が覆すことができる。どちらの意見も尊重される仕組みを採用。

→セルフジャッジの要素を残しつつも観客が見やすい構造になっている

・「魅せる」とは違った「見られる」という感覚

→日本の配信映像を見ていると「見られる意識」がまだまだ根付いていない。

日ごろの練習から出来ることを探していく

参加者写真

担当メンバー: 丹羽望

